

# 介護職員自己評価表

平成29年9月14日

事業所名	小規模多機能型居宅介護 小規模多機能前之浜
------	-----------------------

	正社員	非常勤社員
介護支援専門員	2人	2人
介護福祉士	5人	
実務者研修修了者、その他	3人	
准看護師	1人	

※複数資格者含む

## ◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	備考
前回の課題に関する改善	23.9%	23.9%	34.1%	18.2%	

前回の改善計画	<p>前回の改善が求められた、ADL・IADLを把握した支援の徹底については、日々の状態変化や自立レベルに対応する関わりを検討した支援を心掛けた。介護職員が世話をし過ぎる傾向がみられたことに関しては、本人が自分の事を自分でやろうとしているかを判断する機会を設けるようにした。ケアプラン作成に関しては、①対象者がケアニーズを明確に認識出来る、②高齢者が援助を受け入れる意思がはっきりしている、③自身の自立レベルの認識と努力して取り組もうとする意欲がある、これらについて介護職員間で状態把握を行い情報共有を図った。</p>
前回の改善計画に対する取組み結果	<p>高齢者の日常生活に対する支援体制を、感覚、認知機能、身体機能、知識などをアセスメントすることで、強化しなければならない潜在能力を把握した自立支援に基いた生活を提供することに心掛けた。結果は、半数のスタッフにおいて達成できていたが、半数のスタッフにおいては、提供されていた支援の一部において自立支援に対する配慮が不十分であった。一方、2割ほどのスタッフにおいては、スキル不足がみられOJTが必要と思われた。</p>

## ◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目(偏差値)	よくできている(60以上)	なんとかできている(50~59)	あまりできていない(40~49)	ほとんどできていない(39以下)	合計
SECTION 1 対象者の接し方や態度について	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	100%
SECTION 2 仕事上の態度について	12.5%	37.5%	25.0%	25.0%	100%
SECTION 3 食事について	12.5%	37.5%	37.5%	12.5%	100%
SECTION 4 移乗や移動について	25.0%	12.5%	50.0%	12.5%	100%
SECTION 5 排泄について	37.5%	12.5%	37.5%	12.5%	100%
SECTION 6 入浴について	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100%
SECTION 7 着替えや整容について	12.5%	25.0%	50.0%	12.5%	100%
SECTION 8 服薬について	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100%
SECTION 9 意思疎通について	25.0%	37.5%	12.5%	25.0%	100%
SECTION 10 行動障害について	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100%
SECTION 11 普通の生活やアクティビティについて	25.0%	12.5%	50.0%	12.5%	100%

自己評価及び改善が必要な事項	<p>職員間で認知症支援に個人差があり、すべての職員で適切な支援が提供されるように教育する必要がある。認知機能の低下によって社会生活に適応できない方に対する関与は、できないことを尋ねるのではなく、判断してできることは何か、参加できることは何かを尋ねることで、出来ることを積み重ねていくことが求められている。現状では、適切な援助を超えた、いわゆる、世話をし過ぎる傾向が散見されたことが課題であった。過剰支援は、依存心を増大させ、自尊心を失わせることになりかねず、生活歴や環境、認知機能の状態を十分に把握した適切な支援を提供する必要がある。このことについては、今後OJTを通じて職員間のバラツキを解消することで、より良い支援の提供を図りたい。</p>
	管理者 谷 哲秀

外部評価者	<p>地域密着型サービスとして、喜入前之浜地域での役割発揮や社会参加支援に取り組んでいました。自己評価で課題とされていた適切な支援は、生活歴・病歴・障害などを十分に把握する必要があり、対象者で大きく異なります。関わる職員で適切な支援について検討する機会を持つことで、職員間の連携と共有意識が深まります。このことを事業所で検討し適切な支援を心掛けてください。自己評価の内容から対象者との関係性の深さが伺えますが、二次三次評価に比べ自己評価が大幅に低い介護職員がみられました。業務について面談を重ね自信に繋がる指導を心掛けてください。総合的な評価としては、対象者を中心に据えた支援が提供され、ラポールが十分に図られた手厚い支援がなされていることが推察できました。介護職員一人一人が対象者を中心に捉えた支援を目指しておられ、地域に密着した支援を積極的に手掛けておられるなど、今後の活動が期待できる事業所です。これからも地域に根ざした事業所として頑張ってください。</p>
	〒891-0141 鹿児島市谷山中央6丁目51-1 特定非営利活動法人かごしま福祉開発研究所 社会福祉学博士 田中 安